

平成20年度

農林水産情報交流ネットワーク事業 全国アンケート調査 大豆加工食品に関する意識・意向調査結果

この調査は、平成20年9月中旬から9月下旬に、農林水産情報交流ネットワーク事業の消費者モニター1,500名に対して実施し、1,295名から回答を得た結果である。

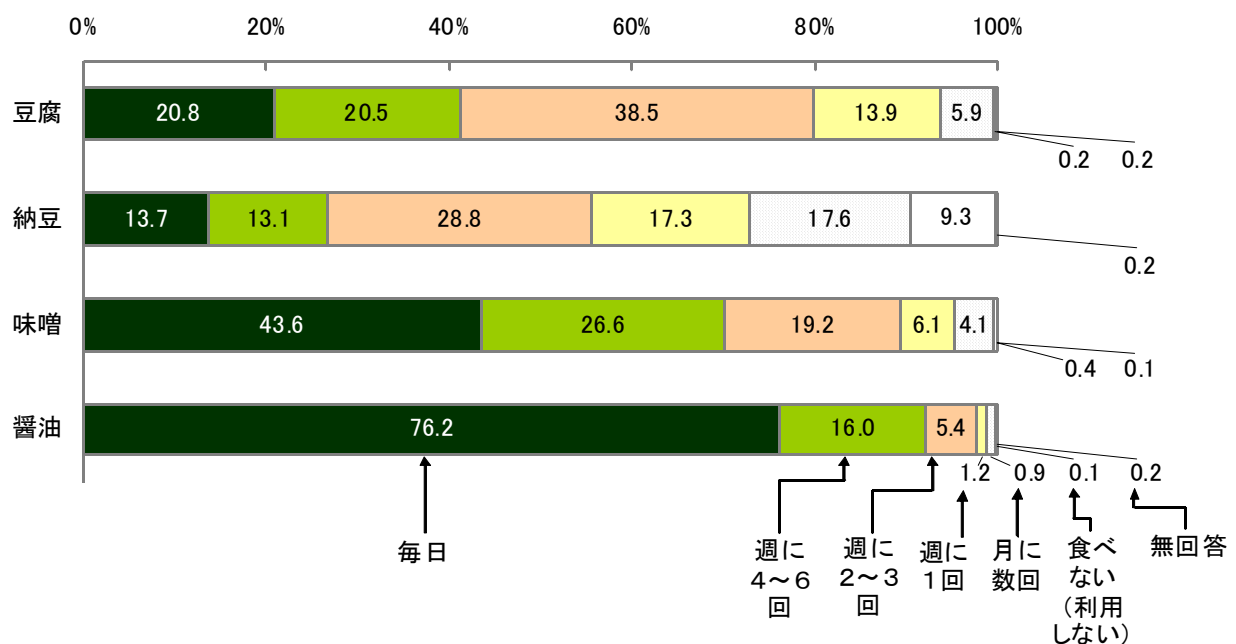
【調査結果の概要】

1 大豆加工食品を食べているまたは利用している頻度

—いずれの大豆加工食品も日本人の食生活に浸透していることがうかがえる—

大豆加工食品を食べているまたは利用している頻度を尋ねたところ、豆腐及び納豆については「週に2～3回」と回答した人の割合が最も高く、味噌及び醤油については「毎日」と回答した人の割合が最も高くなっており、いずれの大豆加工食品も日本人の食生活に浸透していることがうかがえる結果となった。(P. 11～14参照)

図1 大豆加工食品を食べているまたは利用している頻度



2 1年前に比べた大豆加工食品の購入（利用）頻度

－豆腐については「増えたと思う」と回答した人の割合が「減ったと思う」と回答した人の割合を上回る－

大豆加工食品を食べているまたは利用していると回答した人のうち、1年前に比べた大豆加工食品の購入（利用）頻度について尋ねたところ、いずれの食品においても6割以上の人「変わらないと思う」と回答した。

食品別にみると、豆腐については「増えたと思う」と回答した人の割合が「減ったと思う」と回答した人の割合を上回る一方で、納豆、味噌及び醤油については「増えたと思う」及び「減ったと思う」と回答した人の割合が同程度となった。(P. 15～18参照)

図2 1年前に比べた大豆加工食品の購入（利用）頻度

